

あとがき

『ロマンス語研究』第54号をお届けいたします。2020年5月16日(土)～17日(日)に愛知県立大学で開催予定だった第58回大会において発表された論考を中心に掲載されております。

2020年は新型コロナウイルスに翻弄された年でした。横浜港のクルーズ船で感染が起こったことから2月から日本でも一気に緊張感が広がりました。ヨーロッパでは当初、イタリア、スペイン、フランスなどのロマンス語圏での感染拡大が報じられ、心を痛めた会員の方も多かったのではないのでしょうか。

このような状況で第58回大会を予定通り開くことは不可能であると、理事会で判断するに至りました。愛知県立大学では糸魚川美樹先生を実行委員長として準備されておられていたところ、大変申し訳ないことでした。ウェブ上の発表による代替開催といたしました。発表者にも聴衆の皆様にも慣れない形態でとまどうことも多かったことと拝察いたします。「統一テーマ：ロマンス諸語における意味変化と語源」に4件、自由テーマに7件の研究発表をなんとか終えることができました。皆様のご協力で改めて感謝申し上げます。

本号掲載の論文は、同大会発表のうち統一テーマが1本、自由テーマが5本、それに書評1本となりました。数として例年より低調であることは否めませんが、大学への通勤通学もままならず研究活動のみならず生活全般に多くの制約が課されていた中で執筆された方々には敬意を表したく存じます。また、査読に当たられた先生方にも感謝申し上げます。

さて、本会の会則では大会開催時に総会を開くと定められておりますが、大会を通常開催できなかったことから総会を開くことができず、決算予算等を会員にお示しして承認をいただくことができませんでした。新旧事務局間の引継ぎが未了だった事情も重なりました。きわめて望ましくない事態であり、会員の皆様にお詫び申し上げます。非常事態におけるやむを得ない措置としてお許しいただき、別の機会に改めてお諮りいたしたく存じます。

もう一つ重大な失態をご報告いたさねばなりません。第52号に掲載すべきであった論文が編集上の手違いにより漏れてしまったことです。あってはならない不手際であり、当該論文の執筆者および会員の皆様には心よりお詫び申し上げます。執筆者のご了解のもと、本号に掲載することといたしました。

通勤通学はもとより海外調査活動を含めて、自由な研究教育学習活動を取り戻し、顔を合わせての大会開催を行える日が一日も早く戻ってくることを祈念いたします。

日本ロマンス語学会会長 後藤 斉

お詫び

本号に掲載されている論文「フランス語不定代名詞 on の諸用法と通時的考察」(鈴木拓真, 中川亮, 川口裕司)は、本来は第52号(2019年5月発行)に発表される予定でしたが、編集担当の不手際により同号から漏れてしまいました。遅ればせながら本号に掲載する次第です。ご迷惑をおかけした執筆者の皆さま、並びに会員の皆さまに深くお詫び申し上げます。今後はこのようなことのないよう十分注意致しますので、なにとぞお許しください。

日本ロマンス語学会前会長・編集委員(第52号編集担当) 福嶋教隆